

科目名 (英)	歯型彫刻・デッサンⅢ Tooth Carving and DrawingⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、歯の解剖学の知識 歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	歯をつくる歯科技工士にとって基礎となる歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の形態的特徴を立体で表現できるようになる。						
科目概要	下顎右側第一大臼歯の面取り、荒彫りを理解し形態的特徴を立体で表現する。						
到達目標	・46の面取りの手順を理解する。 ・46の荒彫り(主溝と外形)の手順がわかり形態的特徴を立体で表現できる。 ・自分の彫刻と見本模型とよく比較することで観察力を養う。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☐ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に 臨むと良い。 動画を視聴し動作のイメージをつかむと良い。 【事後学習】 毎日30分程度、自主練習することを推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	46の形態的特徴の復習 46の面取り①	実習	デモと一緒に46の面取り手順を理解する。 面取りStep1(咬合面観) Step2(頬舌面観)の面取りまで進める。 Step2でチェックを受ける。完了後はステップ模型を作成する。
2	46の形態的特徴の復習 46の面取り②	実習	デモと一緒に46の面取り手順を理解する。 面取りStep3(隣接面観)まで進める。 Step3でチェックを受け、完了後はステップ模型を作成する。
3	46の形態的特徴の復習 46の面取り③	実習	デモと一緒に46の面取り手順を理解する。 面取りStep4(咬頭差) Step4修正、Step5d主溝の設定まで進める。 Step5でチェックを受け、完了後はステップ模型を作成する。
4	46の形態的特徴の復習 46の面取り④	実習	46の面取りの手順を理解し、テスツチェックを受けながらStep1～5まで実践しステップ模型を作成する。 面取りにより46の形態的特徴を理解する。
5	46の面取りStep3までの実技試験	実習	46の面取りStep3まで指定時間内で実践する。 歯牙模型、プリント、ステップ模型を見てもよしとする。
6	46の形態的特徴の復習 46の荒彫り①	実習	デモと一緒に46の荒彫りを実践する。 面取りStep1(咬頭の位置) Step2(遠心上部鼓形空隙) Step3(隅角の修正)まで進め手順を理解する。
7	46の形態的特徴の復習 46の荒彫り②	実習	デモと一緒に46の荒彫りを実践する。 面取りStep1(咬頭の位置) Step2(遠心上部鼓形空隙) Step3(隅角の修正)まで進め手順を理解する。完了後はステップ模型を作成する。
8	46の形態的特徴の復習 46の荒彫り③	実習	デモと一緒に46の荒彫りの手順を理解する。 面取りStep4(咬頭) Step5(主溝・三角溝)まで進め手順を理解する 完了後はステップ模型を作成する。
9	46の形態的特徴の復習 46の荒彫り④	実習	デモと一緒に46の荒彫りの手順を理解する。 外形の荒彫り(頬側面)の手順を理解する。 完了後はステップ模型を作成する。
10	46の面取りStep5までの実技試験	実習	46の面取りStep5まで指定時間内で効率的に作成する方法を理解する。 歯牙模型、プリント、ステップ模型を見てもよしとする。
11	46の形態的特徴の復習 46の荒彫り⑥	実習	46の荒彫り(主溝・外形)を実践する。 見本模型をよく観察し外形の荒彫りの手順を理解する。 完了後はステップ模型を作成する。
12	46の形態的特徴の復習 46の荒彫り⑦	実習	第一大臼歯(天然歯大)の咬頭差～咬頭までの面取りの手順を理解する。 ステップ毎にチェックを受けながら実践する。
13	46の形態的特徴の復習 46の荒彫り⑧	実習	第一大臼歯(天然歯大)の副溝と隆線の仕上げ彫りの手順を理解する。 ステップ毎にチェックを受けながら実践する。
14	46の面取り～荒彫り復習	実習	第一大臼歯(天然歯大)の咬頭差～咬頭までの面取りの手順を理解する。 ステップ毎にチェックを受けながら実践する。
15	46の荒彫り実技試験(80分)	実習	46の荒彫り(主溝と外形)を80分で一人で実践する。 歯牙模型、プリント、ステップ模型を見てもよしとする。

科目名 (英)	顎口腔機能学演習 Training of Stomatognathic Function Science	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)			
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、解剖学の知識や技術を臨床事例を交えながら、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用しながら指導する。						
目的 科目概要	目的:フェイスボウを使った半調節性咬合器の取り扱い方法その手順を理解習得し、臨床的な知識として歯冠修復や有床義歯の実習に活かす。概要:顔弓記録が歯科技工の仕事にどのように関わってくるのかを知る。顔弓記録やチェックバイトを用いて咬合器の顎路調節をし、臨床的知識を修得する。						
到達目標	・フェイスボウの使い方の手順が分かる。 ・フェイスボウを使つての咬合器の装着方法が分かる。 ・前方・後方の基準点が分かる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☐ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート ☐ 作品						
教科書	配布プリント			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 指示があったところまで、実習を進めておく。 【事後学習】 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。						

授 業 計 画				
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容	
1	口腔内模型の製作①	演習	・台付を行い平行模型を製作する。 ・平行模型について理解する。 ・台付するための石膏操作(石膏の硬さ、石膏の盛り方)を習得する。	
2	口腔内模型の製作②	演習	・トリマーの操作方法を習得する。 ・模型の基底面が咬合平面と平行になるよう削る。 ・ハンドエンジンを使って模型の辺縁を整える。	
3	口腔内模型の製作③	演習	・トリマーの操作方法を習得する。 ・模型の基底面が咬合平面と平行になるよう削る。 ・ハンドエンジンを使って模型の辺縁を整える。	
4	咬合器の0セッティング	演習	・半調節性咬合器の矢状顎路角15度、側方顎路角0度に合わせる。	
5	フェイスボウトランスファー① 咬合器装着	演習	・フェイスボウトランスファーの使用方法について理解する。 ・3人1組になってフェイスボウを使い、前方と後方の基準点について理解する。 ・咬頭嵌合位でチェックバイトを採得することができる。	
6	フェイスボウトランスファー② 咬合器装着	演習	・フェイスボウを用いて上顎の模型を咬合器に装着する。 ・フェイスボウを半調節性咬合器に装着方法を習得する。 ・下顎の口腔内模型を咬頭勘合位で装着する。	
7	チェックバイト①	演習	前方咬合位でのチェックバイトを採得する。	
8	カ口調節	演習	・前方チェックバイトを使った矢状顎路角を調整する。 ・側方カ口角を計算式から算出し、咬合器の側方顎路角を調節する。 ・咬合器に装着された上下顎模型を運動させ、咬合接触の状態を観察する。	

科目名 (英)	歯科理工学Ⅲ Dental Materials ScienceⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科医師として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯科材料の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ知識を事例を交えて授業を行う。						
目的	歯科技工士が製作に用いる材料に関する知識や特性、取り扱い方法を習得する。						
科目概要	精度の良い鋳造体を得るため歯科精密鋳造に用いるスプルー・湯だまり・エアベントの種類と効果、埋没材の種類・組成・性質・取扱い方法を理解する。						
到達目標	・埋没材の性質や取扱い方法について理解できる。 ・歯科鋳造について理解できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	【最新歯科技工士教本 歯科理工学】(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	まとめ1『材料の性質』について	講義	多くある材料の中で、適切なものを選択するためには材料の性質について理解を深める。材料試験の種類や評価方法などを学び数値から材料の性質について理解を深める。
2	まとめ2『金属』について	講義	実習で体験した金属鋳造・加工を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
3	まとめ3『印象材』について	講義	印象材には様々な種類があり、用途に合わせて使い分けを行う。また、取り扱いを誤ると変形や寸法変化の原因となり正確な技工物を製作できなくなる。1年次の実習を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
4	まとめ4『石膏』について	講義	石膏には様々な種類があり、用途に合わせて使い分けをしていく必要がある。また、取り扱いを誤ると正確な技工物を製作できなくなる。1年次の実習を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
5	まとめ5『レジン』について①	講義	義歯床で使用するレジン(加熱重合・常温重合)は、成分の違いにより製作工程や精度が異なるためそれぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。全部床義歯の実習内容と照らし合わせながら特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
6	まとめ6『レジン』について②	講義	レジン前装冠で使用する硬質レジン(光重合)は、同じレジンの種類でも義歯床用レジンとは成分や特性が大きく違うため、誤った製作工程により口腔内で離脱する原因となる。レジン前装冠の実習内容と照らし合わせながら特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
7	まとめ7『陶材』について①	講義	セラミック材料は審美歯科材料として現在注目され需要も高まっているが、成分により様々な種類があり特性も大きく違うため、それぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。歯冠修復技工学の、「陶材焼付金属冠」の授業内容とリンクさせながら理解を深める。
8	まとめ8『陶材』について②	講義	セラミック材料は審美歯科材料として現在注目され需要も高まっているが、成分により様々な種類があり特性も大きく違うため、それぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。歯冠修復技工学の、「陶材焼付金属冠」の授業内容とリンクさせながら理解を深める。

科目名 (英)	歯科理工学Ⅴ Dental Materials ScienceⅤ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科医院での臨床経験を有する教員が、豊富な経験から現在の業界動向も交えた材料の知識や取り扱い方法を、ICTを積極的に活用し授業を行う。						
目的	製作する歯科技工物に用いる材料に関して、正しい知識と取り扱い方法を習得する。						
科目概要	歯科技工物の製作で使用する材料の種類・組成・性質・取扱い方法について、事例を交えながら理解する。						
到達目標	歯科材料について、長所・短所を理解する。 歯科材料について、取扱いの注意事項について理解する。 歯科材料について、起こりうる失敗例の予防方法について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科理工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】1、2年次(あるいは現行の)実習授業で使用了材料を振り返り、取り扱いの方法を確認しておく。 【事後学習】学んだ材料については、実習で使用する際に再度取り扱いの方法などを振り返りながら取り組むこと。		
参考図書	なし						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯冠用硬質レジン	講義	硬質レジンの組成(フィラー、モノマー、重合開始剤など)について理解する。 硬質レジンの性質、重合の種類について理解する。 金属との結合(機械的維持、化学的接着)について理解する。
2	非貴金属合金	講義	コバルトクロム合金について特性と取扱いを理解する。 チタンおよびチタン合金について特性と取扱いを理解する。 ステンレス鋼について特性と取扱いを理解する。
3	研磨	講義	研磨の意義と目的を理解する。 機械研磨に用いる器具・機械と、砥粒の種類について理解する。 化学研磨(電解研磨)の方法と特徴、利点・欠点について理解する。 研磨効率について理解する。 各種修復物の研磨方法について理解する。
4	陶材・セラミックス1	講義	歯冠用セラミックスの種類(焼成温度による分類、成分による分類)を理解する。 セラミックスの機械的性質と強化方法を理解する。 長石系陶材の組成(長石、石英、カオリン、フラックス、金属酸化物、リユーサイト)とその役割を理解する。
5	陶材・セラミックス2	講義	長石質陶材の築盛(練和、築盛、コンデンス)について理解する。 長石質陶材の焼成(焼成過程、気泡、注意点、焼成収縮)について理解する。 金属焼付用陶材(陶材と貴金属の結合、陶材と非貴金属の結合、陶材焼付用合金)について理解する。
6	新しい加工技術	講義	歯科におけるデジタル技術全般について理解する。 CAD/CAMを活用した歯科技工(材料、成形法)を理解する。
7	まとめ講義①	講義	歯冠用硬質レジン、非貴金属合金、研磨、陶材・セラミックス、デジタル化で変わる歯科治療についてまとめ講義を通じて理解を深める。
8	まとめ講義②	講義	歯冠用硬質レジン、非貴金属合金、研磨、陶材・セラミックス、デジタル化で変わる歯科治療についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯技工学Ⅲ Denture TechniquesⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	実習や臨床に必要となる、金属床部分床義歯の製作に関する諸理論について学ぶ。						
科目概要	金属床部分床義歯の製作に関する諸理論について学ぶ。関連事項の知識を振り返り、総合的な復習を行うことを目標とする。						
到達目標	・歯が抜けてしまった口腔内の変化を知り、有床義歯の重要性を理解する。 ・全部床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できるようになる。 ・部分床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	個人トレー	講義	個人トレーの構造、利点、製作手順を理解する。 全部床義歯用、部分床義歯用を比較し違いを理解する。
2	咬合床	講義	咬合床の構造、形態、製作手順を理解する。 全部床義歯用と部分床義歯用を比較し違いを理解する。
3	咬合採得	講義	咬合採得とは何か、実際の手順を理解する。 咬合採得後の咬合床に表されるもの、標準線を理解する。
4	リリーフ・ポストダム	講義	リリーフとは何か、リリーフすべき部位を理解する。 ポストダムとは何か、ポストダムの目的を理解する。
5	全部床の人工歯排列①	講義	全部床義歯の前歯部の排列を理解する。 臼歯部の平衡咬合を理解する。
6	全部床の人工歯排列②	講義	クリステンセン現象、ニュートラルゾーン、パウンドラインについて理解する。
7	全部床の歯肉形成	講義	歯肉形成の一般的な注意事項、各部の形態について理解する。
8	まとめ講義	講義	個人トレー、咬合床、咬合採得、リリーフ・ポストダム、全部床の人工歯排列、全部床の歯肉形成についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名	有床義歯応用実習 I	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
(英)	Plate Denture Applied Practice I	授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
単位			1				
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	全部床義歯(総入れ歯)を製作するための基本的な知識と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の人工歯排列方法の理解を深め、下顎法で排列する。						
到達目標	・全部床義歯の前歯部、臼歯部人工歯排列方法(下顎法)、製作上の注意点をを理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☐ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) プリント			事前事後学習とその内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	ベラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.)						
特記事項	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	咬合器装着[402U(トレーニング'模型)] スプリットキャスト形成[402U]	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 スプリットキャストの形成方法、注意点について理解する。
2	咬合器装着[402L(トレーニング'模型)] スプリットキャスト形成[402U]	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 スプリットキャストの形成方法、注意点について理解する。
3	咬合採得[蠟堤調整] 上顎模型咬合器装着[402U]	実習	咬合採得法の意味、調整法について理解する。 咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。
4	下顎模型咬合器装着[402L] 排列トレーニング[上顎前歯部]	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
5	排列トレーニング[上顎前歯部]	実習	下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
6	上顎前歯部排列	実習	下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
7	排列トレーニング[下顎前歯部]	実習	下顎法の下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
8	下顎前歯部排列	実習	下顎法の下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
9	上下顎前歯部排列 完成	実習	下顎法の上下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
10	排列トレーニング [下顎右側臼歯部]	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
11	下顎右側臼歯部排列	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
12	下顎左側臼歯部排列	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
13	上顎右側臼歯部排列	実習	下顎法の上顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
14	上顎左側臼歯部排列	実習	下顎法の上顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
15	人工歯排列 完成	実習	下顎法の人工歯排列基準、排列方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	有床義歯応用実習Ⅱ Plate Denture Applied PracticeⅡ	年次 2	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
学科・コース	歯科技工士科午後部	授業形態 時間数	実習 30	有 授業回数	15	開講区分 前期
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。					
目的	全部床義歯(総入れ歯)を製作するための知識と技術を習得する。					
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の歯肉形成～流蠟までの方法、注意点の理解を深め排列する。					
到達目標	・全部床義歯のフラスコ埋没～流蠟の方法、注意点を理解できる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☐ レポート					
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) プリント			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。	
参考図書	ベラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.)					
特記事項	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)					

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯肉形成〔下顎右側臼歯部〕 ＊デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
2	歯肉形成〔下顎左側臼歯部〕 ＊Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
3	歯肉形成〔上顎臼歯部〕 ＊Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
4	歯肉形成〔上顎前歯部唇側〕 ＊デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部唇側の歯肉形態について理解する。
5	歯肉形成〔下顎前歯部唇側〕 ＊Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部唇側の歯肉形態について理解する。
6	歯肉形成〔上顎前歯部舌側〕 ＊デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 S字状隆起、前歯部舌側の歯肉形態について理解する。
7	歯肉形成〔下顎前歯部舌側〕 ＊Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部舌側の歯肉形態について理解する。
8	歯肉形成〔上下顎臼歯部舌側〕 ＊Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部舌側の歯肉形態について理解する。
9	口蓋ヒダトレーニング	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 口蓋ヒダの形態について理解する。
10	歯肉形成 完成	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。
11	埋没準備～一次埋没	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 埋没準備～一次埋没までの方法、注意点について理解する。
12	レジン溜り～二次埋没	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 レジン溜り～二次埋没までの方法、注意点について理解する。
13	二次埋没 完了	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 二次埋没の方法、注意点について理解する。
14	埋没 完了	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。
15	流 蠟	実習	フラスコ埋没の流蠟の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学Ⅲ Restorative DentistryⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、新東京歯科技工学校同窓会技新会会長としての知見の広さも踏まえて、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科診療所の臨床ステップ、歯科技工所の臨床ステップ、間接法による補綴装置の製作法についての知識を習得する。						
科目概要	製作過程、印象採得、支台築造、暫間補綴装置、硬質レジン前装冠についての理解を深める。						
到達目標	・補綴物の製作順序、製作上の注意点を理解する。 ・支台築造法、メタルコアやファイバーコアの製作上の注意点を理解する。 ・レジン前装冠の特徴、製作上の注意点を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （ ）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題（空欄補充等）、理解を確認する問題（記述等）の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	参考図書 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	製作過程(臨床ステップの概要)	講義	補綴物の製作順序、歯科診療所の臨床ステップ、歯科技工所の臨床ステップについて理解する。
2	印象採得	講義	印象採得、印象材の種類と特徴、印象材の取り扱い方法について理解する。
3	研究用模型、印象用トレー	講義	研究用模型の目的、トレーの目的、トレーの種類、個人トレー、個歯トレーの製作法について理解する。
4	継続歯、支台築造－1	講義	継続歯(ポストクラウン)の特徴、根面形態、支台築造法について理解する。
5	支台築造－2	講義	いろいろな支台形態、補助的保持形態、分割コアについて理解する。
6	暫間補綴装置、レジン前装冠－1	講義	暫間補綴装置の意義と目的、種類と使用材料、製作法について理解する。レジン前装冠の特徴、レジン前装と陶材前装の比較、維持装置について理解する。
7	レジン前装冠－2	講義	レジン前装冠の窓開けの注意点、フレームのデザイン、硬質レジンについて理解する。
8	まとめ講義	講義	臨床ステップの概要、印象採得、研究用模型、印象用トレー、継続歯、支台築造、暫間補綴装置、レジン前装冠についてまとめ講義を通じて理解を深める。
9	ブリッジの概要と種類－1	講義	ブリッジの特徴、構成について理解する。
10	ブリッジの概要と種類－2	講義	固定性ブリッジ、半固定性ブリッジ、可撤性ブリッジの特徴について理解する。
11	ポンティック－1	講義	基底面形態によるポンティックの分類について理解する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学Ⅳ Restorative DentistryⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、新東京歯科技工学校同窓会技新会会長としての知見の広さも踏まえて、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯を喪失した場合の補綴装置であるブリッジやインプラントについての知識を習得する。						
科目概要	ブリッジの概要と種類、ポンティック、連結法、インプラントについての理解を深める。						
到達目標	・ブリッジの概要と種類、製作順序、製作上の注意点を理解する。 ・ポンティックの要件と構造、種類と形態、製作上の注意点を理解する。 ・インプラントの概要、インプラント治療の流れ、インプラントの種類を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。 （ ）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ブリッジの概要と種類－1	講義	ブリッジの特徴、構成について理解する。
2	ブリッジの概要と種類－2	講義	固定性ブリッジ、半固定性ブリッジ、可撤性ブリッジの特徴について理解する。
3	ポンティック－1	講義	基底面形態によるポンティックの分類について理解する。
4	ポンティック－2	講義	自浄作用によるポンティックの分類、ポンティックの咬合面形態や負担軽減対策について理解する。
5	連結－1	講義	連結部の要件、連結方法の種類、ワンピースキャスト法、鑑付け法について理解する。
6	連結－2	講義	支台装置とポンティックの固定方法、鑑付け法と比較した一塊鑄造法の利点・欠点について理解する。
7	インプラント	講義	インプラントの概要、インプラント治療の流れ、インプラントの種類などについて理解する。
8	定期試験、解説講義	講義	定期試験および解説講義により理解を深める。

科目名 (英)	クラウンブリッジ・デザインⅢ Crown and Bridge Design Ⅲ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院の実務経験を有した経験豊富な教員が、CADを用いた修復物について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	CADを用いた歯冠形態の設計(臼歯部)の手順と手技について習得する。						
科目概要	クラウン(前歯部)の製作(アナログとデジタル)に関する理論と設計を学ぶ。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について理解する。						
到達目標	・歯冠形態を立体的にとらえ、ワックスおよびデジタルで成形することができる。 ・歯列に調和した形態を製作することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品評価」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、自主学習することを推奨する。		
参考図書	適宜参考資料を配布する。						
特記事項	なし						

業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入	実習	複数支台歯がある症例の石膏注入のポイントについて理解できる。
2	模型製作	実習	複数支台歯がある症例の模型製作方法について理解できる。 分割模型製作時の注意点について理解できる。
3	咬合器装着、トリミング	実習	正しい位置関係で咬合器に装着する方法について理解できる。 製作方法(アナログまたはデジタル)に合わせたトリミング方法が理解できる。
4	支台歯マージン調整	実習	CADデザイン用に、支台歯を調整する方法が理解できる。
5	wax up 盛り上げ(上顎中切歯、上顎犬歯)		前歯部製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。
6	wax up 盛り上げ(上顎中切歯、上顎犬歯)		前歯部製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。
7	wax up 外形、表面性状 (上顎中切歯、上顎犬歯)		前歯部製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した形態、表面性状、全体バランスについて理解できる。
8	wax up 外形、表面性状 (上顎中切歯、上顎犬歯)		前歯部製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した形態、表面性状、全体バランスについて理解できる。
9	wax up 外形、表面性状 (上顎中切歯、上顎犬歯)		前歯部製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した形態、表面性状、全体バランスについて理解できる。
10	Cr. CADデザイン 模型のスキャン	実習	CADソフトの立ち上げ～スキャンまでの手順が理解できる。 複数歯製作する模型のスキャン方法が理解できる。
11	Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	クラウンのマージン設定方法が理解できる。 CADソフトを用いたデザインの手順が理解できる。
12	Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	CADソフトを用いたクラウンのデザインの手順が理解できる。 PC上で咬合や接触点を付与する方法が理解できる。
13	Cr. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	完成したCADデザインのデータをCAM加工用に変換する方法が理解できる。
14	Cr. CAM加工 サポートのカット～適合	実習	CAM加工されたクラウンを適合させるまでの手順が理解できる。
15	Cr. 完成物(ワックスパターン)の比較	実習	wax upと、CAD/CAMの製作工程の違いについて理解できる。 複数歯製作時の接触点や咬合調整の違いについて理解できる。

科目名	クラウンブリッジ・デザインⅣ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
(英)	Crown and Bridge Design Ⅳ	授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院の実務経験を有した経験豊富な教員が、CADを用いた修復物について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	CADを用いた歯冠形態の設計(臼歯部)の手順と手技について習得する。						
科目概要	ブリッジ(上顎臼歯部)の製作(アナログとデジタル)に関する理論と設計を学ぶ。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について理解する。						
到達目標	・歯冠形態を立体的にとらえ、ワックスおよびデジタルで成形することができる。 ・歯列に調和した形態を製作することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品評価」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後学習とその内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、自主学習することを推奨する。		
参考図書	適宜参考資料を配布する。						
特記事項	なし						

業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入	実習	複数支台歯がある症例の石膏注入のポイントについて理解できる。
2	模型製作	実習	複数支台歯がある症例の模型製作方法について理解できる。 分割模型製作時の注意点について理解できる。
3	咬合器装着、トリミング	実習	正しい位置関係で咬合器に装着する方法について理解できる。 製作方法(アナログまたはデジタル)に合わせたトリミング方法が理解できる。
4	支台歯マージン調整	実習	CADデザイン用に、支台歯を調整する方法が理解できる。
5	上顎臼歯部Br. wax up 盛り上げ		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。
6	上顎臼歯部Br. wax up 盛り上げ		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。 症例に適応したポンティックの選択基準が理解できる。
7	上顎臼歯部Br. wax up 主溝、外形		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した主溝の位置、バランスについて理解できる。
8	上顎臼歯部Br. wax up 主溝、外形		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した主溝の位置、バランスについて理解できる。
9	上顎臼歯部Br. wax up 副溝～ポンティック完成 原型完成		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した副溝の位置、バランスについて理解できる。 ポンティック原型基底部の形態が理解できる。
10	上顎臼歯部Cr. CADデザイン 模型のスキャン	実習	CADソフトの立ち上げ～スキャンまでの手順が理解できる。 複数歯製作する模型のスキャン方法が理解できる。
11	上顎臼歯部Br. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	支台歯となるクラウンのマージン設定方法が理解できる。 CADソフトを用いたデザインの手順が理解できる。
12	上顎臼歯部Br. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	CADソフトを用いた支台およびポンティックのデザインの手順が理解できる。 PC上で咬合や接触点を付与する方法が理解できる。
13	上顎臼歯部Br. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	完成したCADデザインのデータをCAM加工用に変換する方法が理解できる。
14	上顎臼歯部Br. CAM加工 サポートのカット～適合	実習	CAM加工されたブリッジを適合させるまでの手順が理解できる。
15	上顎臼歯部Br. 完成物(ワックスパター ン)の比較	実習	wax upと、CAD／CAMの製作工程の違いについて理解できる。 複数歯製作時の接触点や咬合調整の違いについて理解できる。

科目名 (英)	矯正歯科技工学 Particular Theories of Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、矯正歯科技工学について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	各種矯正装置を製作するために、役割や製作順序、歯や顎をどのように移動させるかについての知識、技術を習得する。						
科目概要	各種矯正装置の名称や適応、製作手順についての知識、技術を理解する。						
到達目標	・動的矯正装置、静的矯正装置のの名称、適応、製作手順を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング						
特記事項	配布資料「矯正の達人」(オリジナル) 国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	特別講義① 矯正装置－1	講義	各動的矯正装置についてその形態、適応、製作上の注意点等について理解する。
2	Step7 矯正用口腔模型の製作 Step8 矯正装置の必要条件と分類	講義	Step7「矯正用口腔模型の製作」について理解を深める。 Step8「矯正装置の必要条件と分類」について理解を深める。
3	Step9-1 矯正装置の製作法 1. 舌側弧線装置～6. 咬合斜面板	講義	Step9-1「矯正装置の製作法 1. 舌側弧線装置」～「矯正装置の製作法 6. 咬合斜面板」について理解を深める。
4	Step9-1 矯正装置の製作法 1. 舌側弧線装置～6. 咬合斜面板	講義	Step9-1「矯正装置の製作法 1. 舌側弧線装置」～「矯正装置の製作法 6. 咬合斜面板」について理解を深める。
5	Step9-2 矯正装置の製作法 7. 可撤式拡大装置 ～15. スライディングプレート	講義	Step9-2「矯正装置の製作法 7. 可撤式拡大装置」～「矯正装置の製作法 15. スライディングプレート」について理解を深める。
6	Step10 保定装置(静的矯正装置)	講義	Step10「保定装置(静的矯正装置)」について理解を深める。
7	各論 まとめ	講義	Step7「矯正用口腔模型の製作」、Step8「矯正装置の必要条件と分類」、Step9「矯正装置の製作法」、Step10「保定装置(静的矯正装置)」について復習する。
8	定期試験、解説講義	講義	1回～6回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習し理解を深める。

科目名 (英)	矯正歯科技工実習 Practical Training of Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有した経験豊富な教員が、矯正歯科技工製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	矯正装置の製作を通して、矯正歯科技工の手技や製作法、矯正治療の流れを習得する。						
科目概要	矯正用線の屈曲、舌側弧線装置や保定装置の製作を通して、矯正歯科技工の手技や矯正装置についての理解を深める。						
到達目標	・舌側弧線装置、リテーナー(保定装置)の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☐ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」(医歯薬出版)				事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。	
参考図書	矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング						
特記事項	配布資料 実習プリント(オリジナル) 国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	舌側弧線装置〔復習〕	実習	舌側弧線装置の製作方法、製作上の注意点について理解する。
2	リテーナー〔復習〕	実習	リテーナーの製作方法、製作上の注意点について理解する。
3	STロック鑑付け 上顎右側第一大臼歯〔舌側弧線装置〕	実習	STロックの鑑付け方法、注意点について理解する。 維持装置の構造について理解し製作できるようになる。
4	STロック鑑付け 上顎左側第一大臼歯〔舌側弧線装置〕	実習	STロックの鑑付け方法、注意点について理解する。 維持装置の構造について理解し製作できるようになる。
5	設計～脚部の屈曲〔舌側弧線装置〕	実習	舌側弧線装置の設計について理解する。 脚部の屈曲方法、注意点について理解し製作できるようになる。
6	主線の屈曲〔舌側弧線装置〕	実習	主線の屈曲方法、注意点について理解する。
7	主線と脚部の鑑付け〔舌側弧線装置〕	実習	主線と脚部の鑑付け方法、注意点について理解する。
8	自在鑑付け 練習〔舌側弧線装置〕	実習	自在鑑付けの方法、注意点について理解する。 補助弾線の種類と作用方向について理解し製作できるようになる。
9	補助弾線鑑付け～屈曲〔舌側弧線装置〕	実習	自在鑑付けの方法、注意点について理解する。 補助弾線の屈曲方法、注意点について理解し製作できるようになる。
10	研磨 完成〔舌側弧線装置〕	実習	研磨の方法、注意点について理解し製作できるようになる。
11	ふりかけ前準備〔リテーナー〕	実習	レジンふりかけの前準備の方法、注意点について理解し製作できるようになる。
12	ふりかけ〔リテーナー〕	実習	ふりかけ法の手順、注意点について理解し製作できるようになる。
13	形態修正〔リテーナー〕	実習	形態修正の手順、注意点について理解し製作できるようになる。
14	研磨 完成〔リテーナー〕	実習	研磨の方法、注意点について理解し製作できるようになる。
15	振り返り〔リテーナー＆舌側弧線装置〕	実習	リテーナーの製作方法、製作上の注意点について確認し、理解を深める。 舌側弧線装置の製作方法、製作上の注意点について確認し、理解を深める。

科目名 (英)	キャリアデザインⅠ Career Design I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	本校キャリアセンター協力のもと、歯科技工士として歯科医院実務経験を有する教員が、キャリア形成について豊富な事例をもとに授業を行う。						
目的	歯科技工士の業務と歯科技工士の歯科医療における役割について理解する。						
科目概要	「歯科医療界の動向について」を大きなテーマに、歯科医療の現場で活躍する卒業生や企業の採用担当者を通じて諸事例から将来像を明確にし目標設定する。						
到達目標	・歯科医療界の動向について、その概略を理解する。 ・歯科医療界の動向を踏まえた、自らの将来の目標を立てることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☐ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】講義毎に課すレポートで授業の振り返りを行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	年間授業紹介とスケジュールの確認を行う。 入学時に設定した目標を振り返り、今年度の目標を設定する。
2	歯科技工の仕事に関する法律1	講義	歯科技工士法をはじめとした業務に関する法律について、その概略を理解する。
3	歯科技工の仕事に関する法律2	講義	歯科技工に関連した法律についてその概略を知る。歯科医療に従事する際に必要な倫理について理解する。
4	歯科技工の仕事に関する法律3	講義	歯科技工士法をはじめとした業務と作業環境に関する法律について、その概略を理解する。
5	企業講演	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
6	企業講演	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
7	企業講演	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
8	企業講演	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。

科目名 (英)	モデリング & デザイン V Modeling and Design V	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	坂井 隆志
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				前期
講師紹介	CG制作会社 (株)イマジナリーパワー 代表取締役・ディレクター 映画、テレビ、広告、ゲーム等、様々な作品のCG映像制作やVFX制作に携わっている。 また求人を行う立場として、業界に求められるスキルを持つ人材育成を行う。						
目的	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを、作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。						
科目概要	1年次に続き3DCG・映像演出を体系的に学びます。 引き続き3Dの統合ソフトウェアの「MAYA」、コンポジットや映像制作を行う「Aftereffects」を用い、知識と技術の習得を進めていきます。 CG映像作品制作に必要な一連のスキルを身に着けることにより、研究制作過程へのスムーズな橋渡しを行います。						
到達目標	1:MAYAの基本操作の習得 2:質感設定、ライティング、カメラ、コンポジット技術の基本的な知識、各種機能を使った制作が可能						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「課題提出」を50点、受講姿勢を50点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験— ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	Autodesk Mayaトレーニングブック第4版 他			事前事後 学習と その内容	【事前学習】各授業ごとに課題や事前準備の指示 【事後学習】各授業後のフリータイムでのフォローアップ		
参考図書	なし						
特記事項	なし						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1(4/18)	ガイダンス 【MAYA】 1年次授業内容の復習	実習	授業構成、学習スケジュール説明、自己紹介。 3DCG業界について、最新事情や就職活動について説明。 1年次の授業内容の確認、復習、習熟度チェック。				
2(4/18)	【MAYA】 レンダリング基礎	実習	質感設定、ライティング、カメラ、コンポジットの一連の作業の流れの確認。				
3(4/25)	【MAYA】 マテリアル	実習	物の見え方について学習する。 マテリアル、シェーダーについて深掘りすると共に、 関連の深いテクスチャーマッピング、UVマップの復習を行う。				
4(4/25)	【MAYA】 マテリアル	実習	続き				
5(5/2)	【MAYA】 ライティング	実習	現実世界での照明の行い方の学習。 MAYAのライトの種類、設定について深掘りする。 HDRiについて学習。				
6(5/2)	【MAYA】 カメラ	実習	実物のカメラを使用してカメラ、レンズ、レイアウトについての理解を深める。 MAYAのカメラの種類、設定について深掘りする。 実際の映像作品のカットを参考にMAYAでレイアウトを再現する。				
7(5/9)	【MAYA・Aftereffects】 レンダリング実践	実習	質感設定、ライティング、カメラ、レンダリング、コンポジットまでの一連の作業を行い 技術の定着と理解の促進を図る。				
8(5/9)	【MAYA・Aftereffects】 レンダリング実践	実習	続き				
9(5/16)	【MAYA・Aftereffects】 レンダリング実践	実習	続き				
10(5/16)	【MAYA・Aftereffects】 レンダリング実践	実習	続き				
11(5/23)	【Aftereffects】 基本操作	実習	Aftereffectsの基本的な操作方法の学習。				
12(5/23)	【Aftereffects】 コンポジット	実習	レンダリングしたデータの確認、カット編集。 エフェクト、複数素材を使用したコンポジットの学習。				
13(5/30)	【MAYA・Aftereffects】 課題製作	実習	モデリングの終わったシーンに対してマテリアル、ライティング、カメラ、レンダリング、 コンポジットを行い作品として完成させる これまでの習熟度のテスト				
14(5/30)	【MAYA・Aftereffects】 課題製作	実習	続き				
15(6/6)	講評・ガイダンス	実習	製作物の講評やブラッシュアップを行う。 製作物をポートフォリオにまとめるための説明。				

科目名 (英)	モデリング & デザイン VI Modeling and Design VI	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	坂井 隆志
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				前期
講師紹介	CG制作会社 (株)イマジナリーパワー 代表取締役・ディレクター 映画、テレビ、広告、ゲーム等、様々な作品のCG映像制作やVFX制作に携わっている。 また求人を行う立場として、業界に求められるスキルを持つ人材育成を行う。						
目的	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを、作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。						
科目概要	1年次に続き3DCG・映像演出を体系的に学びます。 引き続き3Dの統合ソフトウェアの「MAYA」、コンポジットや映像制作を行う「Aftereffects」を用い、知識と技術の習得を進めていきます。 CG映像作品制作に必要な一連のスキルを身に着けることにより、研究制作過程へのスムーズな橋渡しを行います。						
到達目標	1:MAYAの基本操作の習得 2:アニメーション、ライティング、カメラ、コンポジット技術の基本的な知識、各種機能を使った制作が可能						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「課題提出」を50点、受講姿勢を50点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	Autodesk Mayaトレーニングブック第4版 他			事前事後 学習と その内容	【事前学習】各授業ごとに課題や事前準備の指示 【事後学習】各授業後のフリータイムでのフォローアップ		
参考図書	なし						
特記事項	なし						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	ガイダンス 【MAYA】 デフォーム コンストレイン	実習	授業構成、学習スケジュール説明。 リギングに必要なとなるMAYAの各種デフォーム機能、コンストレイント機能を理解する。				
2	【MAYA】 デフォーム コンストレイン	実習	授業構成、学習スケジュール説明。 リギングに必要なとなるMAYAの各種デフォーム機能、コンストレイント機能を理解する。				
3	【MAYA】 キャラクターアニメーション	実習	リギングを行ったキャラクターを使用して、コントロールリグを操作してアニメーションを作成する方法を理解する。				
4	【MAYA】 キャラクターアニメーション	実習	リギングを行ったキャラクターを使用して、コントロールリグを操作してアニメーションを作成する方法を理解する。				
5	【MAYA】 リギング	実習	キャラクターにリグを作成する方法の学習				
6	【MAYA】 リギング	実習	続き				
7	【MAYA】 リギング	実習	キャラクターにリグを作成する方法の学習				
8	【MAYA】 リギング	実習	続き				
9	【MAYA】 リギング 2	実習	キャラクターにリグを作成する方法の学習				
10	【MAYA】 リギング 2	実習	続き				
11	【MAYA】 リギング 2	実習	続き				
12	【MAYA】 リギング 2	実習	続き				
13	【MAYA・Aftereffects】 課題製作	実習	モデリングが終わった状態のキャラクターを使用してリギング、アニメーションを行い 技術の定着と理解の促進を図る これまでの習熟度のテスト				
14	【MAYA・Aftereffects】 課題製作	実習	続き				
15	講評・ガイダンス	実習	製作物の講評やブラッシュアップを行う。 製作物をポートフォリオにまとめるための説明。				

科目名 (英)	歯科技工士関係法規 Dental Technologist Applicable Laws and Regulations	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、実例を交えながら基本的な法律の知識について授業する。						
目的	歯科技工士関係法規を習得する。						
科目概要	歯科技工士として業務を行うために必要な「歯科技工士法」と「歯科医療関係法規」について事例を交えながら理解する。						
到達目標	・歯科技工士に必要な衛生行政の概要を理解する。 ・歯科技工士法について、様々な事例に適用して捉えられるようになる。 ・医療法、歯科医師法、歯科衛生士法の概要を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科技工管理学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	衛生行政	講義	衛生行政の概要について理解する。 憲法第25条について理解する。
2	歯科技工士法、免許－1	講義	歯科技工士制度の沿革、歯科技工士法の目的について理解する。 歯科技工士免許、申請書類、欠格事由について条文を覚え、理解する。
3	免許－2	講義	歯科技工士名簿、名簿の登録事項について条文を覚え、理解する。 業務従事者届出事項について条文を覚え、理解する。
4	試験、業務	講義	歯科技工士試験、受験資格について理解する。 歯科技工指示書、守秘義務について条文を覚え、理解する。
5	歯科技工所	講義	歯科技工所の開設、届出事項、管理者の義務について理解する。 広告の制限について条文を覚え、理解する。
6	歯科医療関係法規	講義	医療法、医薬品、医療機器等法(薬機法)について概要を理解する。 歯科医師法、歯科衛生士法について概要を理解する。
7	歯科技工士法 まとめ	講義	歯科技工士法・免許、試験、業務、歯科技工所についてまとめ講義を通じて、理解を深める。
8	定期試験、解説講義	講義	1回～7回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	歯科理工学Ⅳ Dental Materials ScienceⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科医師として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯科材料の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ知識を事例を交えて授業を行う。						
目的	歯科技工士が製作に用いる材料に関する知識や特性、取り扱い方法を習得する。						
科目概要	歯科精密鑄造に用いる鑄造用合金や融解熱源、鑄造機の種類と所要性質を理解する。 また精度の良い鑄造体を得るための埋没操作、鑄型の加熱について理解を深める。						
到達目標	・鑄造欠陥の原因と予防方法について理解できる。 ・歯科鑄造について理解できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	【最新歯科技工士教本 歯科理工学】(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	まとめ9『合金の融解、鑄造機』	講義	歯科用金属は、貴金属合金から非貴金属合金に至るまで多種あり、融解方法も鑄造方法もそれぞれに異なる。融解方法や器械の取り扱いを誤ると、口腔内で生体に悪影響を及ぼす可能性も高まる。実習で使用していない方法も含め理解を深める。
2	まとめ10『埋没材』	講義	鑄造時に使用する埋没材は、使用金属により成分も利用温度も大きく違う。適合の良い鑄造体を得るためには特性を理解し使い分けしていく必要がある。1年次からの鑄造体験を踏まえ取り扱いについて理解を深める。
3	まとめ11『鑄造欠陥』①	講義	鑄造欠陥を防止するためには、原因を理解する必要がある。 1年次からの鑄造体験を踏まえ、鑄造欠陥のメカニズムと防止対策について理解を深める。
4	まとめ12『鑄造欠陥』①	講義	鑄造欠陥を防止するためには、原因を理解する必要がある。 1年次からの鑄造体験を踏まえ、鑄造欠陥のメカニズムと防止対策について理解を深める。
5	まとめ13『切削・研削・研磨』①	講義	製作した技工物が口腔内で適合し機能するために、形態修正(調整)～仕上げまでの工程で適切な研磨材料を使用し、実習で使用した各種材料を振り返りながら、適切な研磨方法や使用器材について理解を深める。
6	まとめ14『切削・研削・研磨』①	講義	製作した技工物が口腔内で適合し機能するために、形態修正(調整)～仕上げまでの工程で適切な研磨材料を使用し、実習で使用した各種材料を振り返りながら、適切な研磨方法や使用器材について理解を深める。
7	まとめ①	講義	安全で精度の良い歯科技工物を製作するために、製作工程で使用するすべての材料について理解し取り扱うことが必須である。ここでは、製作工程を踏まえ関連させながら総合的に理解を深める。
8	定期試験、解説講義	講義	定期試験および解説講義により理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯技工学Ⅳ Dental Technology for Plate Denture V	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	関連事項の知識を振り返り、総合的な復習を行うことを目標とする。						
科目概要	金属床部分床義歯の製作に関する諸理論について学ぶ。関連事項の知識を振り返り、総合的な復習を行うことを目標とする。						
到達目標	・以前製作したレジン床と比較した、金属床義歯の特徴が理解する。 ・実習授業では製作しない、オーバーデンチャー、ノンクラスプデンチャー、テレスコープ義歯、オルタードキャストについて理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	金属床義歯－①	講義	金属床義歯とは何か、構造設計と金属床義歯の利点・欠点について理解する。
2	金属床義歯－②	講義	金属床義歯製作について、新たに加わる製作工程について理解する。
3	ケネディ／アイヒナーの分類	講義	ケネディの分類、アイヒナーの分類について理解する。
4	テレスコープ義歯	講義	テレスコープデンチャーについて理解する。
5	オルタードキャスト法	講義	オルタードキャスト法、連結子について理解する。
6	ノンクラスプデンチャー	講義	ノンクラスプデンチャーについて理解する。
7	オーバーデンチャー	講義	オーバーデンチャーについて理解する。
8	定期試験、解説講義	講義	金属床義歯、ケネディ／アイヒナーの分類、オルタードキャスト法、テレスコープ義歯、ノンクラスプデンチャーオーバーデンチャーについて、解説講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯技工学Ⅴ Dental Technology for Plate Denture Ⅴ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、有床義歯に必要な知識や理論について講義を行う。						
目的	金属床義歯の製作を通して、有床義歯技工学を総合的に復習し習得する。						
科目概要	金属床義歯の特徴、製作方法、その他有床義歯製作に必要な知識を理解する。						
到達目標	・以前製作したレジン床と比較した、金属床義歯の特徴が理解する。 ・実習授業では製作しない、オーバーデンチャー、ノンクラスプデンチャー、テレスコープ義歯、オルタードキャストについて理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。		
参考図書	適宜紹介する。				【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	金属床義歯－①	講義	金属床義歯とは何か、構造設計と金属床義歯の利点・欠点について理解する。
2	金属床義歯－②	講義	金属床義歯製作について、新たに加わる製作工程について理解する。
3	ケネディ／アイヒナーの分類	講義	ケネディの分類、アイヒナーの分類について理解する。
4	テレスコープ義歯	講義	テレスコープデンチャーについて理解する。
5	オルタードキャスト法	講義	オルタードキャスト法、連結子について理解する。
6	ノンクラスプデンチャー	講義	ノンクラスプデンチャーについて理解する。
7	オーバーデンチャー	講義	オーバーデンチャーについて理解する。
8	まとめ講義	講義	金属床義歯、ケネディ／アイヒナーの分類、オルタードキャスト法、テレスコープ義歯、ノンクラスプデンチャーオーバーデンチャーについて、まとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	デンチャーデザイン I Denture Design I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1				後期
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、全部床義歯製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	全部床義歯(総入れ歯)を製作するための理論と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の流蠟～研磨・完成までの方法・注意点の理解を深め排列する。						
到達目標	・全部床義歯の重合～掘り出し、削合、研磨の方法、注意点を理解できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品提出」40点、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出日は開講時に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版 プリント)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	ベラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.)						
特記事項	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	流蠟 完了	実習	フラスコ埋没の流蠟の方法、注意点について理解する。
2	レジン填入～重合	実習	加熱重合レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。 レジン填入～重合までの方法、注意点について理解する。
3	レジン填入～重合	実習	加熱重合レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。 レジン填入～重合までの方法、注意点について理解する。
4	掘り出し～咬合器再装着	実習	掘り出しの方法、注意点について理解する。 咬合器再装着の方法、注意点について理解する。
5	削 合 〔選択削合～自動削合〕	実習	選択削合の方法、注意点について理解する。 自動削合の方法、注意点について理解する。
6	自動削合～人工歯形態修正	実習	自動削合の方法、注意点について理解する。 人工歯形態修正の方法、注意点について理解する。
7	粗研磨 〔義歯床床縁の調整〕	実習	粗研磨の方法、注意点について理解する。 義歯床床縁の調整方法、注意点について理解する。
8	中研磨	実習	中研磨の方法、注意点について理解する。
9	仕上げ研磨 〔レーズ研磨〕	実習	仕上げ研磨の方法、注意点について理解する。 レーズの取り扱い方法、注意点について理解する。
10	研磨 完成	実習	研磨の方法、注意点について理解する。 全部床義歯の研磨面の形態について理解する。
11	実技トレーニング 準備	実習	全部床義歯の蟬堤の調整方法、注意点について理解する。
12	実技トレーニング FD排列①	実習	下顎法の全部床義歯人工歯排列方法、注意点について理解する。
13	実技トレーニング FD排列①振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列基準について理解する。
14	実技トレーニング FD排列②	実習	下顎法の全部床義歯人工歯排列方法、注意点について理解する。
15	実技トレーニング FD排列②振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列基準について理解する。

科目名	デンチャーデザインⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
(英)	Denture DesignⅡ	授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、金属床義歯製作に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	金属床義歯の製作工程を理解できるようになる。 金属床義歯のワックスアップからフレーム完成までの製作ができるようになる。 3Dプリンターを用いた原型製作ができるようになる。						
科目概要	金属床義歯の製作について、アナログとデジタルの製作工程の違いについて理解する。						
到達目標	・金属床義歯の設計から既製パターンを用いてのワックスアップの方法、注意点を理解し原型を完成させることができる。 ・CADを用いたフレームの設計ができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「提出作品」と「実技試験」で総合100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☐ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)				事前事後学習とその内容	【事前学習】「有床義歯技工学」の教科書を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。	
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	サベイング～設計	実習	サベイング操作を復習し、リンガルバー、RPI、双子鉤を含む金属床フレームの設計を理解する。
2	リリース、ブロックアウト	実習	設計に合わせた、作業用模型上での処理(リリース、ブロックアウト)について理解する。
3	複印象採得～耐火模型材注入 ／咬合器装着	実習	作業用模型をシリコン印象材で複印象し、高温鑄造用の耐火模型の製作について、それらの工程を理解する。
4	耐火模型乾燥～表面処理 ／咬合器装着	実習	耐火模型の乾燥から表面処理までの操作を理解する。
5	設計転写～ワックスアップ	実習	耐火模型の設計線転写、ワックスアップの手順について理解する。
6	リンガルバーワックスアップ	実習	既製パターンを用いてのリンガルバーのワックスアップ方法を理解する。
7	支台装置ワックスアップ	実習	既製パターンを用いての支台装置、スケルトン部のワックスアップ方法を理解する。
8	ワックスアップ完成～スプルーイング	実習	既製パターンの連結および外フィニッシングラインの形成方法を理解する。
9	埋没～鑄造	実習	吸引加圧鑄造用の高温鑄造のスプルー、リングレス埋没の方法を理解する。
10	掘り出し～サンドブラスト ～スプルーカット	実習	リン酸塩系埋没材の掘り出し、非貴金属合金のスプルーカット、形態修正について、それらの工程を理解する。
11	形態修正	実習	非貴金属合金の形態修正の方法を理解する。
12	形態修正	実習	非貴金属合金の形態修正の方法を理解する。
13	荒研磨	実習	非貴金属合金の荒研磨の方法を理解する。
14	仕上げ研磨	実習	非貴金属合金の仕上げ研磨の方法を理解する。
15	研磨完成	実習	非貴金属合金の研磨操作、研磨後の処理の方法を理解する。

科目名 (英)	デンチャーデザインⅢ Denture DesignⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、金属床義歯製作に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	金属床義歯の製作工程を理解できるようになる。 金属床義歯のワックスアップからフレーム完成までの製作ができるようになる。 3Dプリンターを用いた原型製作ができるようになる。						
科目概要	人工歯配列、歯肉形成、レジン研磨まで、講義で学んだ知識を基に金属床義歯の製作をする。						
到達目標	金属床義歯の製作工程を理解できるようになる。 金属床義歯のワックスアップからフレーム完成までの製作ができるようになる。 CADを用いたフレームのデザインおよび3Dプリンターでの原型製作ができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「提出作品」と「実技試験」で総合100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)				事前事後 学習と その内容	【事前学習】「有床義歯技工学」の教科書を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。	
参考図書	適宜紹介する						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	フレーム模型試適	実習	金属フレームの作業用模型適合について理解する。
2	作業用模型の設計～スキャン	実習	CADを用いた金属床のスキャン方法について理解する。
3	ブロックアウト、リリース クラスプの選択、デザイン	実習	CADを用いたブロックアウト、リリースの方法を理解する。 クラスプの選択方法およびデザインの方法を理解する。
4	クラスプのデザイン 金属床プレート部分デザイン	実習	CADを用いたクラスプの選択方法およびデザインの方法を理解する。 金属床のプレート部分のデザイン方法を理解する。
5	クラスプのデザイン 金属床プレート部分デザイン完成	実習	CADを用いたクラスプの選択方法およびデザインの方法を理解する。 金属床のプレート部分のデザイン方法を理解する。
6	GAM(3Dプリンター)のデータ設計	実習	3Dプリンターの取り扱い方法について理解する。 3Dプリンターへのデータ移行およびプリントの設定方法について理解できる。
7	重合体の取り出し、洗浄 重合体の適合、形態修正	実習	プリントされた重合体の取り出し方法および、洗浄処理の方法について理解できる。 模型へ適合させる手順について理解できる。 形態修正のポイントについて理解できる。
8	適合の比較と検証(金属とレジンフレーム)	実習	金属フレームとレジンフレームの適合の違いについて検証し、 材料の特性について理解する。
9	人工歯排列～削合	実習	人工歯排列と削合の工程を理解する。
10	削合～歯肉形成	実習	削合と歯肉形成の工程を理解する。
11	歯肉形成～コア採得準備	実習	シリコーンを用いたコア採得について理解する。
12	コア製作～流浪	実習	流し込みレジン法の注入口付与および、コア採得の工程を理解する。
13	レジン注入～重合	実習	シリコーンコアを用いた流し込み法について、流し込み操作方法を理解する。
14	注入口カット～形態修正	実習	流し込みレジンの形態修正の方法を理解する。
15	研磨完成	実習	流し込みレジンの艶出し、研磨後の処理についてポイントを理解する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学Ⅴ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
	Restorative DentistryⅤ	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、歯冠修復技工学について基本的な知識を身につけられるよう授業を行う。						
目的	陶材焼付金属冠等の製作に関する理論と技術について習得する。						
科目概要	陶材焼付金属冠の特徴、ポーセレン(陶材)の築盛・焼成、陶材焼付金属冠の製作過程、ジャケットクラウンについての理解を深める						
到達目標	・陶材焼付金属冠の特徴、製作方法、製作上の注意点を理解する。 ・金属、レジン、陶材の特徴を理解する。 ・ジャケットクラウンの特徴、製作方法を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版) 国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	陶材焼付金属冠	講義	陶材焼付金属冠(メタルボンドクラウン)の特徴、構造、製作上の注意点について理解する。
2	フレームのデザイン-1	講義	硬質レジン前装冠のフレームとメタルボンドクラウンのフレームの違い、窓開けの注意事項について理解する。
3	フレームのデザイン-2	講義	メタルフレームの表面処理法、メタル調整の方法、ディギヤッシングの目的について理解する。
4	前鑑付け法と後鑑付け法	講義	メタルボンドブリッジの前鑑付け法と後鑑付け法について理解する。
5	修復材の加工-1	講義	歯科用合金の所要性質、タイプ別金合金、金銀パラジウム合金、陶材焼付用合金、硬化熱処理、金属元素と融点について理解する。
6	修復材の加工-2	講義	レジン前装と陶材前装の比較、歯科用陶材の組成、各成分とその役割・特徴について理解する。
7	修復材の加工-3 ジャケットクラウン	講義	クラックの原因、コンデンスの目的、コンデンス法の種類について理解する。 ジャケットクラウンの特徴、製作法について理解する。
8	復 習	講義	1回～7回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名	クラウンブリッジ・デザインⅤ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
(英)	Crown and Bridge Design Ⅴ	授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院の実務経験を有した経験豊富な教員が、CADを用いた修復物について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	CADを用いた歯冠形態の設計(臼歯部)の手順と手技について習得する。						
科目概要	ブリッジ(下顎臼歯部)の製作(アナログとデジタル)に関する理論と設計を学ぶ。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について理解する。						
到達目標	・歯冠形態を立体的にとらえ、ワックスおよびデジタルで成形することができる。 ・歯列に調和した形態を製作することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品評価」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後学習とその内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、自主学習することを推奨する。		
参考図書	適宜参考資料を配布する。						
特記事項	なし						

業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入	実習	複数支台歯がある症例の石膏注入のポイントについて理解できる。
2	模型製作	実習	複数支台歯がある症例の模型製作方法について理解できる。 分割模型製作時の注意点について理解できる。
3	咬合器装着、トリミング	実習	正しい位置関係で咬合器に装着する方法について理解できる。 製作方法(アナログまたはデジタル)に合わせたトリミング方法が理解できる。
4	支台歯マージン調整	実習	CADデザイン用に、支台歯を調整する方法が理解できる。
5	下顎臼歯部Br. wax up 盛り上げ		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。
6	下顎臼歯部Br. wax up 盛り上げ		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。 症例に適応したポンティックの選択基準が理解できる。
7	下顎臼歯部Br. wax up 主溝、外形		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した主溝の位置、バランスについて理解できる。
8	下顎臼歯部Br. wax up 主溝、外形		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した主溝の位置、バランスについて理解できる。
9	下顎臼歯部Br. wax up 副溝～ポンティック完成 原型完成		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した副溝の位置、バランスについて理解できる。 ポンティック原型基底部の形態が理解できる。
10	下顎臼歯部Cr. CADデザイン 模型のスキャン	実習	CADソフトの立ち上げ～スキャンまでの手順が理解できる。 複数歯製作する模型のスキャン方法が理解できる。
11	下顎臼歯部Br. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	支台歯となるクラウンのマージン設定方法が理解できる。 CADソフトを用いたデザインの手順が理解できる。
12	下顎臼歯部Br. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	CADソフトを用いた支台およびポンティックのデザインの手順が理解できる。 PC上で咬合や接触点を付与する方法が理解できる。
13	下顎臼歯部Br. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	完成したCADデザインのデータをCAM加工用に変換する方法が理解できる。
14	下顎臼歯部Br. CAM加工 サポートのカット～適合	実習	CAM加工されたブリッジを適合させるまでの手順が理解できる。
15	下顎臼歯部Br. 完成物(ワックスパター ン)の比較	実習	wax upと、CAD／CAMの製作工程の違いについて理解できる。 複数歯製作時の接触点や咬合調整の違いについて理解できる。

科目名	クラウンブリッジ・デザインⅥ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
(英)	Crown and Bridge Design Ⅵ	授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院の実務経験を有した経験豊富な教員が、CADを用いた修復物について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	CADを用いた歯冠形態の設計(臼歯部)の手順と手技について習得する。						
科目概要	ブリッジ(上顎前歯部)の製作(アナログとデジタル)に関する理論と設計を学ぶ。天然歯の特徴、歯列への調和、咬合接触について理解する。						
到達目標	・歯冠形態を立体的にとらえ、ワックスおよびデジタルで成形することができる。 ・歯列に調和した形態を製作することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品評価」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	なし			事前事後学習とその内容	【事前学習】シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、自主学習することを推奨する。		
参考図書	適宜参考資料を配布する。						
特記事項	なし						

業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入	実習	複数支台歯がある症例の石膏注入のポイントについて理解できる。
2	模型製作	実習	複数支台歯がある症例の模型製作方法について理解できる。 分割模型製作時の注意点について理解できる。
3	咬合器装着、トリミング	実習	正しい位置関係で咬合器に装着する方法について理解できる。 製作方法(アナログまたはデジタル)に合わせたトリミング方法が理解できる。
4	支台歯マージン調整	実習	CADデザイン用に、支台歯を調整する方法が理解できる。
5	上顎前歯部Br. wax up 盛り上げ		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。 審美的な天然歯形態の再現方法について理解できる。
6	上顎前歯部Br. wax up 盛り上げ		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。 審美的な天然歯形態の再現方法について理解できる。
7	上顎前歯部Br. wax up 盛り上げ		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した盛り上げの方法について理解できる。 症例に適応したポンティックの選択基準が理解できる。
8	上顎前歯部Br. wax up 外形、表面性状		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した主溝の位置、バランスについて理解できる。 審美的な天然歯形態の再現方法について理解できる。
9	上顎前歯部Br. wax up ポンティック完成 原型完成		複数歯製作時のポイントについて理解できる。 歯列に調和した副溝の位置、バランスについて理解できる。 ポンティック原型基底部の形態が理解できる。
10	上顎前歯部Cr. CADデザイン 模型のスキャン	実習	CADソフトの立ち上げ～スキャンまでの手順が理解できる。 複数歯製作する模型のスキャン方法が理解できる。
11	上顎前歯部Br. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	支台歯となるクラウンのマージン設定方法が理解できる。 CADソフトを用いたデザインの手順が理解できる。
12	上顎前歯部Br. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	CADソフトを用いた支台およびポンティックのデザインの手順が理解できる。 PC上で咬合や接触点を付与する方法が理解できる。
13	上顎前歯部Br. CADデザイン マージン設定～デザイン	実習	完成したCADデザインのデータをCAM加工用に変換する方法が理解できる。
14	上顎前歯部Br. CAM加工 サポートのカット～適合	実習	CAM加工されたブリッジを適合させるまでの手順が理解できる。
15	上顎前歯部Br. 完成物(ワックスパター ン)の比較	実習	wax upと、CAD／CAMの製作工程の違いについて理解できる。 複数歯製作時の接触点や咬合調整の違いについて理解できる。

科目名 (英)	歯科技工実習Ⅰ Training of Dental TechnologyⅠ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院での実務経験を有した経験豊富な教員が、歯科技工について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	歯のデッサン、歯型彫刻、全部金属冠のワックスアップ、全部床義歯前歯部排列の基礎技術力を習得する。						
科目概要	歯のデッサン、歯型彫刻、全部金属冠のワックスアップ、全部床義歯前歯部排列を習得する。						
到達目標	・決められた制限時間内での作品の完成ができるようになる。 ・歯のデッサン、歯型彫刻の方法、注意点を理解し、実習を進めることができるようになる。 ・操作の復習を行い手順の再確認ができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「実技試験」で総合100点満点とする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)				事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯型彫刻・ワックスアップ・人工歯排列の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。	
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料 歯冠修復技工学 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実技トレーニング① タイムトライアル①	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
2	実技トレーニング② タイムトライアル①復習	実習	①と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
3	実技トレーニング③ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
4	振り返り実習①	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
5	実技トレーニング④ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
6	振り返り実習②	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
7	実技トレーニング⑤ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
8	振り返り実習③	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
9	実技トレーニング⑥ タイムトライアル②	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
10	実技トレーニング⑦ タイムトライアル②復習	実習	②と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
11	実技トレーニング⑧ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
12	振り返り実習④	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
13	実技トレーニング⑨ タイムトライアル③	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
14	実技トレーニング⑩ タイムトライアル③復習	実習	③と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
15	実技トレーニング⑪ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。

科目名	歯科技工実習Ⅱ	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	若林 誠
(英)	Training of Dental TechnologyⅡ	授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、での臨床経験を有した経験豊富な教員が、臨床事例と関連づけて、蛭型採得、人工歯排列・歯肉形成、歯のデッサンや歯型彫刻について指導する。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	全技協実技評価試験出願判定試験の作品についてフィードバックを受け実力を確認、今後の課題を理解する。国家試験実地試験で出題される課題の実習トレーニングを行う。実習作品は、評価表を用い自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。						
到達目標	・全部金属冠の蛭型採得を、制限時間(60分間)内で合格基準以上に完成させることができるようになる。 ・総義歯人工歯排列・歯肉形成を、制限時間(2時間30分間)内で合格基準以上に完成させることができるようになる。 ・指定された歯のデッサンと歯型彫刻の作品を、決められた時間内で合格基準以上に完成させることができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「実技試験」で総合100点満点とする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)				事前事後学習とその内容	【事前学習】歯型彫刻・ワックスアップ・人工歯排列の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。	
参考図書	配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)						
特記事項	配布資料 歯冠修復技工学 実習プリント(オリジナル) 制限時間内で課題が完成できない場合は、自主的に練習をすること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	振り返り実習⑤	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
2	実技トレーニング⑫ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
3	振り返り実習⑥	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
4	実技トレーニング⑬ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
5	振り返り実習⑦	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
6	実技トレーニング⑭ タイムトライアル④	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
7	実技トレーニング⑮ タイムトライアル④復習	実習	④と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
8	実技トレーニング⑯ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
9	振り返り実習⑧	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
10	実技トレーニング⑰ タイムトライアル⑤	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
11	実技トレーニング⑱ タイムトライアル⑤復習	実習	⑤と同様の課題を完成見本を参考にして、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
12	実技トレーニング⑲ タイムトライアル⑥	実習	制限時間を設定して、完成見本無しで、実技タイムトライアルを実施する。 実技の理解度、制限時間を意識して操作を行う。
13	実技トレーニング⑳ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。
14	振り返り実習⑨	実習	今までに行ったことのある実習を自ら行い、操作手順を確認する。
15	実技トレーニング㉑ 歯型彫刻	実習	石膏彫刻を制限時間内に行う。 歯の形態の特徴を理解を目標とする。

科目名 (英)	歯科技工実習Ⅲ Training of Dental TechnologyⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	若林 誠
		授業形態	実習		有		
		時間数	120	授業回数	60	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	4			開講期間	12/21～2/3
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、での実務経験を有した経験豊富な教員が、臨床事例と関連づけて、歯のデッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲について指導する。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	「歯のデッサン」「ワイヤー屈曲」「歯型彫刻」の実習トレーニングを行う。実習作品は、評価表を用いた自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。						
到達目標	指定された歯のデッサン、ワイヤー屈曲、歯型彫刻の作品を、決められた時間内で合格基準以上に完成させることができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はG PA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 「実技試験」で総合100点満点とする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	配布資料 歯の解剖学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】歯型彫刻・ワイヤー屈曲の項目の「実習プリント」を読み、製作工程および注意事項について確認しておくことを推奨する。 【事後学習】取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	配布資料 有床義歯技工学 実習プリント(オリジナル)						
特記事項	制限時間内で課題が完成できない場合は、自主的に練習をすること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ワイヤー屈曲トレーニング①	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
2	ワイヤー屈曲トレーニング②	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
3	トレーニング① 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
4	トレーニング② 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
5	トレーニング③ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
6	トレーニング④ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
7	トレーニング⑤ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
8	トレーニング⑥ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
9	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
10	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
11	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
12	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
13	トレーニング⑦ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。

14	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題:90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品はブレ国家試験(実地)として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
15	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	

[illegible]

37	トレーニング⑤ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
38	トレーニング⑥ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
39	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
40	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
41	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
42	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
43	トレーニング⑦ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
44	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題: 90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品はプレ国家試験(実地)として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
45	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	

46	ワイヤー屈曲トレーニング①	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
47	ワイヤー屈曲トレーニング②	実習	ワイヤー屈曲のトレーニングを行う。トレーニング後は、評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。
48	トレーニング① 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
49	トレーニング② 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
50	トレーニング③ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
51	トレーニング④ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
52	トレーニング⑤ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
53	トレーニング⑥ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
54	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
55	課題製作-1 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
56	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品は卒業判定試験①として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
57	課題製作-2 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	
58	トレーニング⑦ 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻のトレーニングを行う。トレーニング後は見本や評価表を用いた自己チェックおよびや教員によるフィードバックを行う。
59	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻を行う。 この実習で提出された作品はブレ国家試験(実地)として成績評価する。 製作後は、見本や評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
60	課題製作-3 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	

科目名 (英)	モデリング研究制作 I	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	坂井 隆志
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1				
講師紹介	CG制作会社（株）イマジナリーパワー 代表取締役・ディレクター 映画、テレビ、広告、ゲーム等、様々な作品のCG映像制作やVFX制作に携わっている。 また求人を行う立場として、業界に求められるスキルを持つ人材育成を行う。						
目的	MayaをはじめとするCGデザインソフトを用いて、基本操作から応用的なコンテンツ制作までを、作品制作を通して実践的にかつ段階的に学ぶ。						
科目概要	モデリング & デザイン授業で学んだ技術を元に実際に作品制作を行います。 また、制作した作品をポートフォリオとしてまとめる方法を学びます。						
到達目標	1:勉強した機能や知識を活用しオリジナル作品として成果物を制作できる 2:就職活動に生かせるようにポートフォリオとしてまとめる						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「課題提出」を20点、及びレポートを80点として100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	Autodesk Mayaトレーニングブック第4版 他			事前事後 学習と その内容			
参考図書							
特記事項							
授 業 計 画							
回数	授業テーマ		授業形態	授業内容			
1	ガイダンス		実習	授業構成、学習スケジュール説明 ポートフォリオについて説明			
2	レイアウト		実習	テーブルライトを擬人化しキャラクターらしく動かす演出を考える			
3	モデリング		実習	テーブルライト のモデリング			
4	モデリング		実習	ステージ のモデリング			
5	マテリアル		実習	マテリアル設定			
6	UV・テクスチャー		実習	UVマッピング・テクスチャー作成			
7	リギング		実習	ジョイント設定 IK設定			
8	リギング		実習	コントロールリグ作成			
9	モーション		実習	コントロールリグを使用したモーションの作成			
10	モーション		実習				
11	モーション2		実習	コントロールリグを使用したモーションの作成2			
12	モーション2		実習				
13	ライティング・レンダリング		実習	ライト作成 カメラ設定 レンダリング設定			
14	コンポジット		実習	Aftereffectsでコンポジットして出力			
15	講評 ポートフォリオ作成		実習	完成作品の講評とポートフォリオ作成のための素材作成			

科目名 (英)	インターンシップ I Internship I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
		単位	2			開講期間	
講師紹介	本校キャリアセンター協力のもと、歯科技工士として歯科医院での実務経験を有する教員が、キャリア形成について事例をもとに授業を行う。						
目的	実際の歯科臨床現場で学ぶことを通じて、歯科技工士の業務内容への理解を深めることを目的とする。						
科目概要	歯科技工業務の見学及び就業体験を通じて、業界で活躍するための課題を設定し、進路決定の準備を具体的に進めることができる。						
到達目標	・就業体験先にて使用する器具機材を安全に取り扱うことができる。 ・就業体験先において挨拶をはじめとした「身構え」「気構え」「心構え」を身につけることができる。 ・設定した目標に対して、記録し、結果の検証と改善をすることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☐ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】実習ノートに目標を記入する。 【事後学習】わからなかった語句や内容は教科書などで調べ、翌日の実習につなげる必要がある。		
参考図書	なし						
特記事項	実習マニュアル						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	実習	インターンシップに向けて、歯科技工所における業務の流れについて、基礎的な知識を理解する。
2	オリエンテーション	実習	インターンシップに向けて、歯科技工所における業務の流れについて、基礎的な知識を理解する。
3	オリエンテーション(社会人基礎力)	実習	インターンシップに向けて、基本的なビジネスマナーについて実践を通して理解する。
4	オリエンテーション(社会人基礎力)	実習	インターンシップに向けて、基本的なビジネスマナーについて実践を通して理解する。
5～14	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工関連業務を理解し実践する。
15～24	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工関連業務を理解し実践する。
25～29	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工関連業務を理解し実践する。
30	学校にて総括	実習	就業体験を振り返り、学科内で情報共有する。